メンテナンス情報

乾燥機のお手入れ、点検はもうお済みですか？

乾燥機の点検時に切り取ってお使いください！

キリトリ線

【使用前後】点検チェックシート

※必ず電源を切り、アースを確認した後で点検を進めてください。

	使用前	使用後	点検項目	注意点・作業方法
【掃除】	☐	☐	電源コードを抜いて掃除をする	落雷の影響で操作盤などが破損する場合がありますので、使用後は必ずコンセントからプラグを抜いてください。 火災予防のために、プラグにほこりがついていないか点検・清掃してください。プラグを接続したままで使用していると、ほこりでショートし、トラッキング現象で火災になる可能性があります。
	☐	☐	風胴金網の掃除	金網が詰まっていると乾燥ムラや乾きにくくなるなど乾燥の効率が落ちてしまいます。掃除はほうきやエアコンプレッサー、ブロワで飛ばすなどの方法があります。
	☐	☐	バーナ周りの掃除	「サーミスタ」という熱風温度センサーは、バーナ周りがほこり等で汚れていると、温度をうまく感知できなくなる場合があります。
	☐	☐	送風機内部の掃除	送風機ダクトをはずして送風機内部を掃除してください。ほこりがついていると回転のバランスが崩れ、振動の原因となります。 使用前であれば、ほこりは取れやすいのでほうきではらうだけでも大丈夫です。その後、試運転時に「送風」を行うと中にあったほこりも取れます。
	☐	☐	シャッタベルト、下スクリューの掃除	掃除の方法は取扱説明書をご覧ください。シャッタベルトが減っていないか確認してください。また、下スクリューの掃除の際は、はじめにシートなどを敷いておくと後片付けが楽です。
	☐	☐	昇降機下部の掃除	掃除の方法は取扱説明書をご覧ください。掃除後、外したふたが入りにくくなった場合、挿入レールに詰まっている籾や麦をほうきなどで取り除くと入りやすくなります。
		☐	残粒をすべて出す	乾燥機の中に籾やごみが残ったままになると、ネズミが侵入したり、籾やごみの水分によって機内が結露してさびを発生する原因になります。 掃除の際は電源コードを必ず外して、掃除口から籾やごみをすべて出してください。
【燃料関係】	☐	☐	油漏れはないか	燃料タンクのコックを閉めてください。燃料タンクやストレーナから油が漏れていた場合、火災の原因となるのですぐにご購入先へ連絡し、修理を依頼してください。
	☐		エアー抜き	方法は取扱説明書をご覧ください。配管中に空気があると乾燥中にバーナ異常で止まる原因になります。
		☐	ストレーナに灯油をためて保存する	バーナストレーナカップに灯油をためた状態で保存すると、ポンプ内部を保護できます。
【試運転・その他】	☐		ダクトはしぼらず、曲げずにまっすぐ取り付ける	ダクトの付け方は、取扱説明書をご覧ください。 吹出口を壁に向けないでください。また、張りの角度がきついと空気を逃がすことができず乾燥時間が多くかかってしまうので注意してください。風が正常に出ているか確認してください。
	☐		昇降機バケットベルトの確認	バケットが偏ったり減ったりしていると、昇降機が詰まってしまいます。また、ベルトが緩んでいた場合も詰まるので確認してください。調整については取扱説明書の「点検・調整・整備」をご覧ください。 なお、ベルトが破損していた場合は交換が必要です。
	☐		電源を入れて、それぞれの運転ボタンで試してみる	異音や異常表示が出ないか確認してください。 ネズミよけのふたを外さないと、安全装置が作動しバーナが着火しないことがあります。最低でも送風機のふたを外してから試運転してください。 また、乾燥機に触れている人がいないかどうかも確認してください。

※点検・手入れの作業中に不具合を見つけたら、取扱説明書の「故障診断」をご覧ください。掲載されていない場合は、ご購入先までお問い合わせください。
※掃除や点検をすることで乾燥機の性能を維持することは、安心して使えることのほかに、無駄な燃料や電気の消費を抑えることができます。